

この章のテーマ

1. なぜ、「献金」があるのかを知しましょう。献金は、神様への信頼と感謝と献身の印です。
2. 什一献金にあらわされた神様の思いを知しましょう。
3. 教会事は自分事です。教会の予算と報告に関心を持ち、神様のみ心を求めながら決め共に感謝をいたしましょう。

【なぜ献金があるのでしょうか？】



イエス様は、「子どもたちをわたしのところに来させなさい。…神の国はこのような者たちのものである。」と言われ…子供たちを抱き上げ、手を置いて祝福されました。（マタイ10：14、16）目には見えませんが、これが神さまとあなたとの現実です。

神様は献げものを必要としておられないのに、なぜ神様は献金という仕組みを与えられたのだろうか？と考える時もここがスタートになります。

神様に支えられて私たちは生きています。しかし時々、人は自らの罪によりその霊的現実を見ないようにします。そしてかつてのアダムのように自らが自分の神となり、自分の命を支えなくてはならないという大きな誤解を持ち、富やお金に絶対の信頼を持つようになります。そのような私たちのために献金があります。私たちは献金するたびに、この絵のように自分が神様に抱きかかえられ、守られ、祝福されて生きている、と確認するのです。ですから、献金はそれぞれの「私は神様によって生かされている」という信仰告白でもあるのです。

聖書の人々は、収穫があるとその収穫の恵みを神様に感謝いたしました。例えば、自分の畑に成った収穫の内、最初に刈った全体の1/10の束を担いで神様の前に持ってきて献げました。これが私たちの献金の心です。その時の光景を思い描いてください。その人は、きっと喜び感謝しつつその束を担いでいることでしょう。そして神様はそのことを喜び、さらに豊かにその人を祝福して下さることでしょう。

献金は神様に信頼し、神に仕えようとする私たちの感謝のささげものです。☀️
献金とそれに伴う恵みを一緒に体験してまいりましょう。



【什一献金（約束手献金）：十分の一は主のもの】

聖書には一か所だけ、「神をためしてみよ」と呼びかけているところがあります。

それは旧約聖書の最後に収められているマラキ書の3章にあります。

人は神のものを盗むことができますか。

ところが、あなたがたはわたし(神)のものを盗んでいる。しかも、あなたがたは言う。『どのようにして、私たちはあなたのものを盗んだでしょうか。』

それは、十分の一と奉納物によってである。あなたがたはのろいを受けている。あなたがたは、わたしのものを盗んでいる。この民全体が盗んでいる。

十分の一をことごとく、宝物倉に携えて来て、わたしの家の食物とせよ。こうしてわたしをためしてみよ。

一万軍の主は仰せられる。一わたしがあなたがたのために、天の窓を開き、あふれるばかりの祝福をあなたがたに注ぐかどうかをためしてみよ。

わたしはあなたがたのために、いなごをしかって、あなたがたの土地の産物を滅ぼさないようにし、畑のぶどうの木が不作とならないようにする。

一万軍の主は仰せられる。一すべての国民は、あなたがたをしあわせ者と言うようになる。あなたがたが喜びの地となるからだ。」と万軍の主は仰せられる。

(マラキ3章8-12節)

この聖書の言葉によりますと、収穫の十分の一は、神さまが、私たちが献げることができるようにと、それぞれに余分に預けてくださったものです。それは神様のものなので、神さまにお返しするものです。しかしながら、お返ししないでそれを自分の懐の中にしまうことも不可能ではありません。

しかしながら、この什一献金の目的は「すべての国民は、あなたがたをしあわせ者というようになる。あなたがたが喜びの地となるからだ」にあることをどうぞ忘れないでください。

什一献金を献げないこともできますが、きっと神様は何らかの方法をそれを精算される、と思います。罰を受けるというわけではありません。心と生活の豊かさを失うことになるのではないのでしょうか？

【教会の事は自分事】

私たちは自分の家の会計については、誰もが関心をもっています。

家のことは自分事だからです。もしあなたが子どもで、お家の冷蔵庫の中に食品が何も入っていませんでしたら不安を持つかもしれません。家庭のことは自分事です。

そして、教会のこともまた自分事です。

献金は献げたら、それで終わりではありません。それをどのように用いていくか、祈り話し合っ

て決め、最後まで見届ける必要があります。

今の時代、話し合うことはあまり歓迎されません。

考え、話し合い、結果を見届けること…もし教会ではなくて一般の場

でしたら、「面倒くさい」と言われるかもしれません。

でも教会の場合、「教会のことは自分事」です。

なぜなら、イエス様は、私たち一人ひとりを神の家族の一員としてくださったからです。



イエス様は、私たち一人ひとりをイエス様のお体の一部分としてくださったからです。教会のことも、私たちはそれぞれにイエス様によって神の家族の一員にされたものとして、自分事として考えていきましょう。

私たちは、毎月、毎年の会計報告に関心をもって見ながら祈り協力することにしています。私たちは献金をすることで教会の財政と働きを支え、神様のみわざに参加するのです。

【その他のいろいろな献金】

感謝献金：福山バプテスト教会では感謝献金をしています。

良かったことを感謝して神様にお献げいたします。

一見、良くないことのように思えることも感謝されて献金される方もおられます。

ある時、「夫婦喧嘩感謝」と感謝献金がささげられたことがありました。

翌週、「夫婦仲直り感謝」と感謝献金がささげられて、ホッとしたことがありましたが、すべてが神様のみ手の中にあって感謝なことだ、と受け止められているんだなあと思われました。

指定献金：献金が使われる時のその目的を指定して献げるものです。

その献金は一旦教会の会計に入れられますが、そのまま指定の目的のために支出されます。例えば、「国際飢餓対策機構、難民のため」「世界祈禱日のため」「会堂建築のため」などです。

【Q&Aコーナー】

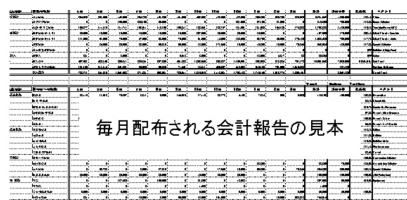
Q：教会の会計はどのようになっていますか？教えてください。

A：教会の予算と決算報告（質疑・承認）は年に一度の総会で決定いたします。

総会の決議に基づいて活動が行われ、毎月会計執事より会計報告書が配布されます。

その報告書に基づいて聖徒会では、会計についての質問や提案などがなされます。

つまり、神さまの思いを求めながら私たち自身で予算を立て、毎月、明解な報告がなされ、意見や提案がなされつつ、教会の活動も会計も進んでゆきます。



毎月配布される会計報告の見本